

推進の柱
1

であいが広まり、
つながりのある地域づくり

であいが広まり、つながりのある地域づくり

重点項目〈柱1-1〉

地域の力を強くする基盤づくりを進めます

1-1-1

自治会町内会、地区社協等の地域組織の充実

1-1-2

地域で活動している人・団体同士のつながりづくり

重点項目〈柱1-2〉

地域課題解決に取り組む人材の支援や新たな人材の育成を進めます

1-2-1

地域人材の育成・確保

重点項目〈柱1-3〉

お互いを理解し、様々な人が地域と関わる共生・共創の仕組みづくりを進めます

1-3-1

心のバリアフリー・多様性の理解促進

現状と課題

- ◆自治会町内会は、地域での生活を多くの側面から支える重要な役割を担う団体です。自治会町内会に加入する人や活動に協力する人が増えるよう、活動の周知などの取組を進めていくことが必要です。
- ◆複雑化する地域課題に対しては、自治会町内会、地区社協、地区民児協など様々な団体が連携して取組を進めることが必要です。
- ◆子どもから高齢者までを対象とした身近な地域の相談役として、民生委員・児童委員が活動しています。一人暮らし高齢者や児童虐待、生活困窮者への対応など難しい支援を必要としている人が増えており、公的機関との更なる連携強化が求められています。また、民生委員・児童委員の活動を地域全体で支援するような仕組みも必要です。
- ◆令和元年度に実施した区民意識調査で、「隣近所に住んでいる人を知っているかどうか」について、「だいたい知っている」との回答が47.6%と最も高く、「よく知っている」13.8%と合わせると61.4%が「知っている」と回答しています。前回調査（H27実施）では63.6%が「知っている」と回答しており、2.2ポイント減少しています。こうした点から人と人とのつながりが希薄化傾向にあることがわかります。
- ◆地区連合町内会圏域で見ても、人口構造や暮らしぶり、地形など、様々な面から捉えてもその規模・状況には差があります。暮らしの中での困りごとや住民が認識している地域の課題、その解決のための活動も自治会町内ごとに特徴が見られることから、自治会町内会など、より身近な圏域における地域の活動を支援し、住民と協働して一層進めていく必要があります。

柱1-1-1

自治会町内会、地区社協等の
地域組織の充実

柱1-1-2

地域で活動している人・団体同士の
つながりづくり

将来の目指す姿

- 1 地域の福祉保健課題の解決に向けた取組を行っている自治会町内会や地区社協の取組・活動について、地域の中で理解が一層深まり、地域での支え合いの取組が広がっています。
- 2 地域で活動する人や団体がお互いの活動や課題等を共有し、解決に向け連携することで、地区別計画の取組が進んでいます。
- 3 より身近な地域での見守り活動や要援護者情報の共有・支援、誰もが気軽に立ち寄れる場づくりなどの取組が進められています。

【地区別計画について】

都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」は、区全体計画と地区別計画の2層で構成されています。地区別計画とは、連合自治会町内会及び地区社会福祉協議会エリアごとに、自分たちのまちを「こんなまちにしたい」という目標を立て、取り組む活動をまとめたものです。



※画像は第3期計画のものです。

【都田地区の地区別計画“都田”ってあったかいじゃんの実現に向けて】

都田地区では、地区別計画に掲げている3つの目標ごとに分科会を設けて取組を推進しています。メンバーは自治会町内会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員だけでなく、保健活動推進員や食生活等改善推進員、PTAの方など目標に合った様々な地域の人が集まり、具体的な取組の検討や情報共有を行っています。

その中の1つ、見守り支え合い分科会の中では、地区全体の見守りの意識を高めるために、キャラクター「小松菜hairのみやこちゃん」とスローガン「都田“ってあったかいじゃん」を作成しました。そのキャラクターとスローガンが描かれたみやこちゃんキーホルダーは、都田のあたたかさを支えてくれる人々へ配布され、地域の力を強くする一助になっています。

また、令和元年度には『住みつづけたいまち“都田”協議会』を立ち上げ、地域運営補助金を活用してBCチェッカーを購入したりスーパーの店先を借りた誰もが集える場としてみやこちゃんおしゃべりサロンを実施するなど、より広く地域住民に届けられるような取組が進められています。



都田地区地域福祉保健計画キャラクター
みやこちゃん



みやこちゃんおしゃべりサロン

柱1-1-1 自治会町内会、地区社協等の地域組織の充実	
内容	<p>(1)地域の支え合いの基盤となる自治会町内会等の活動について、様々な機会を捉え、わかりやすく周知していきます。</p> <p>(2)自治会町内会の加入促進の取組について、自治会町内会と協働してさらに進めていきます。</p> <p>(3)より多くの住民が自治会町内会等の活動に参加できる仕組みを地域とともに考えていきます。</p> <p>(4)単位自治会町内会の活動など、より身近な地域における活動の充実を支援します。</p> <p>(5)地域福祉保健の推進役の中心である地区社協や地区民児協、保健活動推進員、食生活等改善推進員(ヘルスマイト)等の活動及び運営を支援します。</p>
具体的な取組	<p>◆自治会町内会への支援・加入促進</p> <p>◆地区社協の活動及び運営支援</p> <p>◆民生委員・児童委員、保健活動推進員、食生活等改善推進員(ヘルスマイト)等が活動しやすい環境づくりの推進</p>
活動指標	<p>【定量評価】</p> <p>地区社協活動運営支援の回数 現状値(令和元年度):39回 目指す方向性:↗</p> <p>【定性評価】</p> <p>地区社協の地域の状況に応じた新たな取組事例</p>
SDGs	

柱1-1-2 地域で活動している人・団体同士のつながりづくり	
内容	<p>(1)地域における活動団体同士のつながりを深めるため、活動団体の連絡会や研修会を開催し、つながりづくりを支援します。</p> <p>(2)年齢や性別、障害等の区別なく、すべての地域の人を対象にした多世代交流事業を実施し、地域における顔の見える関係づくりを進めます。</p> <p>(3)地域における防災や防犯などの活動を通じて、身近な近隣での顔の見える関係づくりが進み、共助の力が高まるよう支援します。</p> <p>(4)地区ごとに地域の実情に合わせた地区別計画の推進体制をつくるなど、計画の進捗管理と新たな課題等の検討を行う仕組みをつくります。</p>
具体的な取組	<p>◆地域活動団体やボランティア団体の研修会、交流会の実施(地域ケアプラザ圏域)</p> <p>◆地域防災力向上に向けた災害時要援護者支援事業(つづき そなえ)の実施</p> <p>◆地区別計画推進体制の確立・活動支援</p>
活動指標	<p>【定量評価】</p> <p>地域活動団体やボランティア団体向けの研修会、交流会の開催数(地域ケアプラザ圏域) 現状値(令和元年度):13回 目指す方向性:↗</p>
SDGs	

コラム

災害時要援護者支援の取組
「荏田南・みんな知り合い・助け合い」(荏田南地区)

荏田南地区では、「荏田南・みんな知り合い・助け合い」事業として、災害時要援護者支援事業に取り組んでいます。必ず起こるであろう災害時に、安否確認や避難支援を希望する人々に「そなえちゃんカード」に登録していただき、前もって地域で把握し、向こう三軒両隣、みんなで助け合う仕組みをつくる事業です。取組として、「そなえちゃんカード登録者の集い」を行っています。そなえちゃんカード登録者の声を聞き、支援をスムーズに行えるように、顔の見える関係づくりを進めています。また、医療・薬剤、緊急連絡先などの情報を筒容器に入れ、自宅で保管し、災害時にそなえる「緊急時あんしん情報キット」をそなえちゃんカード登録者に配付しています。荏田南に住んでよかったと思えるような温かい地域を目指しています。



緊急時あんしん情報キット

コラム

つながり♡ネット(川和地区)

川和地区には「つながり♡ネット」という地域で福祉保健課題を共有・解決する仕組みがあります。

平成29年3月に設立した自治会町内会を主体としたネットワークで、民生・児童委員、友愛活動員、川和連合ふれあいたい(地域の見守り活動を行うボランティア)などの地域の団体と加賀原地域ケアプラザや行政機関などが、地域の福祉保健に関わる課題を連携しながら共有し、解決に向けた取組をしています。

地域の中で福祉保健に関わる困りごとが起きた場合、まずは自治会町内会で解決にあたり、そこで解決できない時には連合町内会が対応し、それでも解決できない場合は、ケアプラザが関係機関に調整をして、行政や専門機関に相談していきます。

また、「自治会町内会つながり♡ネット」では定期的に自治会町内会役員をはじめ民生委員・児童委員等福祉関連団体所属員で福祉関連情報交換会を開催し、共有化を図っています。更に川和地区では日頃から川和連合ふれあいたいの定例会、地域のお祭り、川和芸能文化祭、防災訓練等で様々な団体が協力し合っており、お互いに支え合う土壌ができています。

つながりシート(様式1)				
利用者	記載日	平成 年 月 日()		
氏名	種	男	女	生年月日 年 月 日()
住所	TEL			
現状				
課題解決に利用可能な 組織・団体の名称	種別	出席 署名	対象者 課題	対応策
自治会町内会	有 無			
民生委員・児童委員	有 無			
地区社会福祉協議会	有 無			
地域福祉 民生委員児童委員	有 無			
川和連合ふれあいたい	有 無			
その他地域福祉団体	有 無			
その他地域福祉団体	有 無			
加賀原地域ケアプラザ	有 無			
行政 福祉保健課	有 無			
保健所	有 無			
消防(消防団)	有 無			
警察(加賀原警察署)	有 無			
福祉 民生委員児童委員等	有 無			
その他(民生委員・児童委員)	有 無			
その他(行政・専門機関)	有 無			
その他(行政・専門機関)	有 無			

上記、種々の関係団体において、情報を共有することを同意致します。 平成 年 月 日
 * 氏名を公表しない方は「匿名」としてください。 氏名 田

つながりシート

地域課題解決に取り組む人材の支援や 新たな人材の育成を進めます

現状と課題

- ◆ 地域懇談会での意見等から、自治会町内会や地域活動における担い手不足はどの地域でも共通の課題となっており、人材の確保・育成については、引き続き取り組んでいく必要があります。地域活動者・団体だけでなく、これまで地域活動に積極的な関わりを持っていなかった人や子どもから高齢者まで、全ての地域住民に着目して地域活動に関わるきっかけづくりを進めていく必要があります。
- ◆ 住民一人ひとりの知識、経験、特技、趣味等を活かし、楽しみややりがいを感じられるような活動体験をきっかけに、担い手として地域で活躍してもらうための支援が必要です。

柱1-2-1

地域人材の育成・確保

将来の目指す姿

- 1 あらゆる世代の人たちが気軽に地域と関わる仕組みができ、楽しみながら、福祉保健活動に参加する人が増えています。
- 2 地域で活動する人たちがやりがいを持って活躍し、また、それぞれの活動がつながり、広がるなど、地域活動が活性化しています。

コラム

三世代交流会(佐江戸加賀原地区)

佐江戸加賀原地区連合町内会では年に2回、夏と冬に『三世代交流会』という大規模な多世代交流が行われています。夏は流しそうめん、冬は餅つきを主とし、そのほか綿菓子、フライドポテト等、6～8つの模擬店が並びます。参加団体として、7つの自治会町内会、民生委員・児童委員、保健活動推進員のほか、シニアクラブ、都田西小学校おやじの会、消防団や地域の障害者施設が協力し多世代交流を盛り上げています。この『三世代交流会』では、佐江戸加賀原地区が学区となっている川和中学校、都田中学校から10名～20名の中学生がボランティアとして協力しています。

参加する中学生は、設営や販売の他にお餅つきの手伝いや、昔遊びを老人会のメンバーに教えてもらいながら小学生たちと一緒に遊ぶなど、多くの地域の大人たちと触れ合うこととなります。勉強や部活、習い事で忙しい中、地域の大人と関わりながらボランティアや地域活動の楽しさを知る良い機会となっています。



「三世代交流会」で活躍する中学生ボランティア

柱1-2-1 地域人材の育成・確保	
内容	<p>(1)「ボランティアセンター」を中心として、地域にボランティアを増やし、活動が続けられるように、またボランティア同士が横につながるよう、交流会の開催や情報誌の発行等を通じて、ボランティア活動やボランティアグループを支援します。</p> <p>(2)ボランティアや担い手に関する現状分析とニーズ把握を行い、効果的に担い手の育成につなげ、組織化していきます。</p> <p>(3)区民のボランティア活動や福祉保健活動への意識や意欲の向上を図るとともに、活動が活発に行われる風土づくりを進めるために、「協働の地域づくり大学校」、「はあとdeボランティア」、福祉教育や福祉啓発事業に取り組みます。</p> <p>(4)学校等と連携し、子どもも楽しみながら参加できる地域活動に取り組み、様々な人と交流することで、地域への愛着形成や次世代の担い手育成につなげます。</p>
具体的な取組	<p>◆区社会福祉協議会のボランティアセンター機能の充実</p> <p>◆ボランティアや担い手に関するニーズ把握と分析</p> <p>◆地域活動団体やボランティア団体の研修会、交流会の実施(区域)</p>
活動指標	<p>【定量評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ボランティアコーディネート数(区域) 現状値(令和元年度):2,120回 目指す方向性:↗ ● 区社協が開催した地域活動団体やボランティア団体に対する研修会、交流会の開催数(区域) 現状値(令和元年度):6回 目指す方向性:↗
SDGs	   

コラム

ボランティア研修・懇談会(山田地区)

山田地区には、ボランティア団体と連携した地域の活動が数多くあります。山田地区社会福祉協議会が調査し、把握しただけでも200以上の活動が存在することがわかりました。そんな多様な地域活動についての情報共有や課題の発見、更なる連携のために、山田地区社会福祉協議会では、地域でボランティア活動をしている団体や個人、関係機関の協力のもと「ボランティア研修・懇談会」を年に1回開催しています。

各団体から直接活動を紹介いただくことで活動内容だけでなく、ボランティアの心構えや実情を知ることができ、より具体的にボランティアに対する理解を深めることに繋がっています。また、懇談会では活発に意見交換が行われ、各団体との顔の見える関係を築き、横の連携を強化する貴重な場となっています。



ボランティア研修・懇談会

お互いを理解し、様々な人が地域と関わる 共生・共創の仕組みづくりを進めます

現状と課題

- ◆都筑区は、区民の平均年齢が最も若い区である一方で、高齢者人口の伸び率は高く、これから高齢化がますます進んでいくことが予想されているとともに、地域福祉保健活動の担い手であるボランティアも高齢化しています。
- ◆ライフスタイルの多様化や変化によって、近隣住民との関係性が希薄になりつつある状態で、認知症の人や高齢者、障害者や子ども、妊産婦、外国人住民など、あらゆる人が安心して暮らしていくためには、地域住民の理解と協力が必要です。また、すべての住民の参加により「地域」が成り立っていること、住民の誰もが地域に果たせる社会的な役割があるということを相互理解できるように、福祉啓発を引き続き進める必要があります。
- ◆安心して暮らすことができる地域は、一人ひとりの取組や行政サービスだけでは構築することはできません。住民相互で支え合い、一緒に暮らせる社会をつくっていく支え合いの仕組みが必要です。

柱1-3-1

心のバリアフリー・多様性の理解促進



将来の目指す姿

- 1 生活環境や年齢、性別、国籍、障害の有無等に関わらず、様々な立場や背景を超えて人々がお互いを認め合い、支え合えるような多様性の理解が地域の中で進んでいます。
- 2 地域住民等がお互いに支え合いながら、必要な時に助けを求めることができるような、機会や場が地域に確保されています。

コラム

憩いの場(茅ヶ崎南MGCRS地区)

住民からの「気軽にお茶や、お話ができる場がほしい」、「遠くまでは歩いていけない」という声を受け、茅ヶ崎南MGCRS地区社会福祉協議会が立ち上がり、平成30年4月にマンションの集会所を使った「憩いの場」が始まりました。

子どもの遊び道具や勉強スペースもあることで小学生の参加も多く、高齢者の趣味活動を子どもたちが覗き、自然と会話が生まれています。高齢者が趣味活動を教えたり、子どもたちが学校での話をしたりといった多世代の交流が盛んに行われています。

また、ここの特徴は、運営している男性陣が、誰もが気軽に立ち寄れる風通しの良い「カフェ」のような居場所づくりを意識しているところです。イベントではない「日常の自由な交流の場」、マンションであっても「顔の見える多世代の集い場」となっています。また、第二火曜日には憩いの場と新栄地域ケアプラザが協力し、未就学児親子対象の「茅ヶ崎南子育てサロン」も行っており、地域のボランティアと地域の親子の交流が行われています。



憩いの場の様子

柱1-3-1	心のバリアフリー・多様性の理解促進
内容	<p>(1)生活環境や年齢、性別、国籍、障害の有無等に関わらず、同じ地域に暮らす住民として相互理解を進め、誰もが安心して自分らしく暮らすことができるよう、理解を深める機会、風土づくり及び環境づくりに取り組みます。</p> <p>(2)「支える側」「支えられる側」の区別なく、誰であってもお互いさまの関係づくりを構築するため、啓発等に地域と協働で取り組みます。</p>
具体的な取組	<p>◆誰もが地域とつながるための働きかけ・きっかけづくりの推進</p> <p>◆学校、サロンや子ども食堂等の地域の居場所、作業所等の交流の推進</p> <p>◆心のバリアフリーの推進</p>
活動指標	<p>【定量評価】</p> <p>地域ケアプラザが把握している住民主体の交流・居場所の設置数 現状値(令和元年度):389か所 目指す方向性:→</p> <p>【定性評価】</p> <p>つづきMYプラザ(都筑多文化・青少年交流プラザ)での取組の状況</p>
SDGs	

コラム

チャコ村「みんなでつくる みんなの居場所」(東山田地区)

東山田地区にあるチャコ村は、地域の誰もが気軽に立ち寄り、交流する「みんなの居場所」として、平成29年12月に開村しました。芝生広場に小屋、それと野菜作りをする農園があり、芝生広場ではラジオ体操や小学生主催の紙飛行機選手権を開く等、子どもからお年寄りまで、多世代交流ができる楽しい場所になっています。

また、小屋ではみんなの交流の場としてお茶を飲んだり、食材を持ち寄って食事をしたり、特技を持った人々が講師となりポマNDERやリース作り、育てた藍の葉を利用し藍染めなどのイベントを開催しています。今では地元以外の人でも来るようになり、憩いの場として多くの人に愛されて利用されています。

集まるみんなが家族の様に落ち着く居心地の良い場所となっています。



チャコ村の様子